山県市

地震防災マップ

阪神･淡路大震災（兵庫県南部地震）では、犠牲者の8割以上が住宅の倒壊や家具の転倒による圧死でした。このような大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅の耐震化や家具の転倒防止の重要性が教訓として示されていますが、対策についてはなかなか進んでいないのが現状です。

山県市は、東南海地震と南海地震に係る地震防災対策推進地域にも指定されています。そこで、日頃から地震に対する備えをしていただくために、地震による揺れや予想される建物被害についての情報を示す地震防災マップを作成しました。

このマップをご覧になり、ご自宅やみなさんがよく行かれるところの安全性について考えてみてください。

地震防災マップの内容

◇ 揺れやすさマップ（おもて面）

・「揺れやすさマップ」は、大規模な地震を想定して、予測される震度の分布を示した地図です。

・震度予測はメッシュごとに行って、震度別に色分けをして表示しています。なお、1つのメッシュの大きさは約50m四方です。

◇ 地域危険度マップ（うら面）

・「地域危険度マップ」は、大規模な地震が発生した場合に全壊する建物の割合（建物全壊率）を一定の地域ごとに算定して、地域の危険度を参考値として表した地図です。

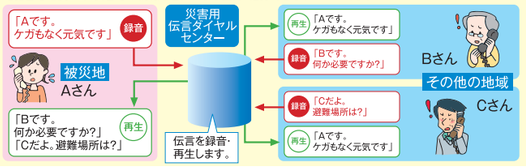
・建物全壊率の数値が大きくなるほど地域の建物が受ける被害が大きくなることが予想されます。

お問い合わせ先　山県市役所　都市計画課　電話：22−6833　ファックス：22−2118

覚えてください、災害時の声の伝言板

災害用伝言ダイヤル「171」

地震など大規模な災害が発生した際、安否の確認や見舞い、問い合わせなどの電話が被災地に集中し、電話がつながりにくい状況になってしまいます。災害用伝言ダイヤル「171」はこのような災害発生時に、被災地内の電話番号を使って、安否等の情報を音声により登録･確認できるサービスです。



伝言の録音方法

1 7 1

※プッシュホン式電話機とは数字ボタンを押すごとに「ピッポッパッ」といった音が聞こえる電話機のことです。

▼ 音声案内が流れます

1

▼ 音声案内が流れます

被災地の方はご自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルして下さい。

(X X X X) X X ー X X X X

▼ 音声案内が流れます

回転ダイヤル式電話機

音声案内が流れます

▼

録音（30秒以内でお話ください。）

プッシュホン式電話機

1 #

音声案内が流れます

▼

9 #

音声案内が流れます

伝言の再生方法

1 7 1

※プッシュホン式電話機とは数字ボタンを押すごとに「ピッポッパッ」といった音が聞こえる電話機のことです。

▼ 音声案内が流れます

2

▼ 音声案内が流れます

被災地の方はご自宅の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルして下さい。

(X X X X) X X ー X X X X

▼ 音声案内が流れます

回転ダイヤル式電話機

音声案内が流れます

▼

再生

プッシュホン式電話機

1 #

音声案内が流れます

▼

9 #

音声案内が流れます

※伝言を追加して録音されるときは 0 #

日ごろの備え

避難生活最初の約3日間は、自力で生活することになるかもしれません。何をどれだけ準備しておけばよいか、家族で話し合ってみましょう。

避難誘導活動用

避難時にまず持ち出す

●生活用品
- □衣類･下着　□タオル　□ティッシュ
- □懐中電灯　□携帯ラジオ･予備乾電池など

●貴重品
- □現金（公衆電話用に10円玉必要）　□通帳･印鑑
- □権利証書　□健康保険証など

●非常食関係
- □飲料水　□乾パン
- □紙皿など食器　□缶切りなど

●救急医療品
- □傷薬･包帯･ばんそうこう
- □かぜ薬･胃腸薬など

生活維持活動用

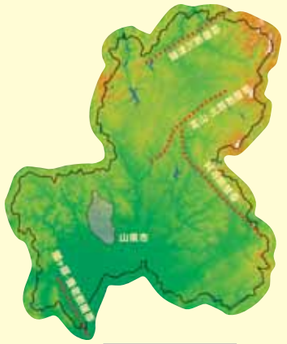
災害復旧までの数日間（最低3日）分準備する

●生活用品
- □毛布･寝袋　□新聞紙　□洗面用具
- □鍋･やかん　□トイレットペーパー
- □筆記用具･バケツなど

●非常食
- □飲料水（1人1日3リットルを目安に）
- □保存食（缶詰やレトルト食品など）
- □チョコレートなどの菓子類
- □調味料など

●燃料
- □卓上コンロ　□携帯コンロ
- □カスボンベ　□固形燃料など

発行／山県市　　作成／平成20年3月



●想定地震1●

関ヶ原-養老断層帯による地震

岐阜県の『地震防災行動計画』では、地震を起こす可能性がある活断層として、上図に示すように4つの断層を主なものとして挙げています。

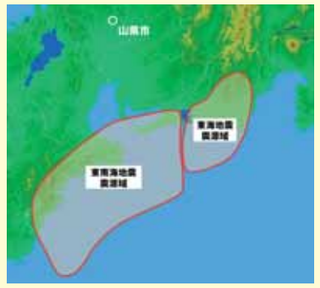
この内、山県市に最も被害を及ぼす可能性が高い関ヶ原-養老断層帯が活動したとして、マグニチュード7.7の地震を想定しました。

今後30年内に関ヶ原-養老断層帯による地震が発生する可能性は、1%未満と推定されています。

震度予想

山部では震度5弱ですが、住宅が分布する谷部では、震度5強～6弱の揺れが予想されます。

山県市の揺れやすさマップ



●想定地震2●

複合型東海地震

（東海地震と東南海地震の同時発生）

静岡県から愛知県の太平洋沖のプレート境界で発生する海溝型の地震です。ここでは、東海地震と東南海地震が同時に発生した場合の震度予測を行いました。地震の規模を示すマグニチュードは、8以上と非常に大きく、近い将来に極めて高い確率で発生すると考えられています。

震度予想

山部では震度5弱ですが、住宅が分布する谷部では、震度5強の揺れが予想されます。

※注
- マグニチュードは、地震の規模そのものを表す値です。
- 震度は、その地点での揺れの強さを示す値で、同じ地震でも場所によって数値が変わります。
- 新耐震基準（昭和56年6月）以前に建てられた建物の中には、震度6弱以上で倒壊被害が生じる可能性があります。

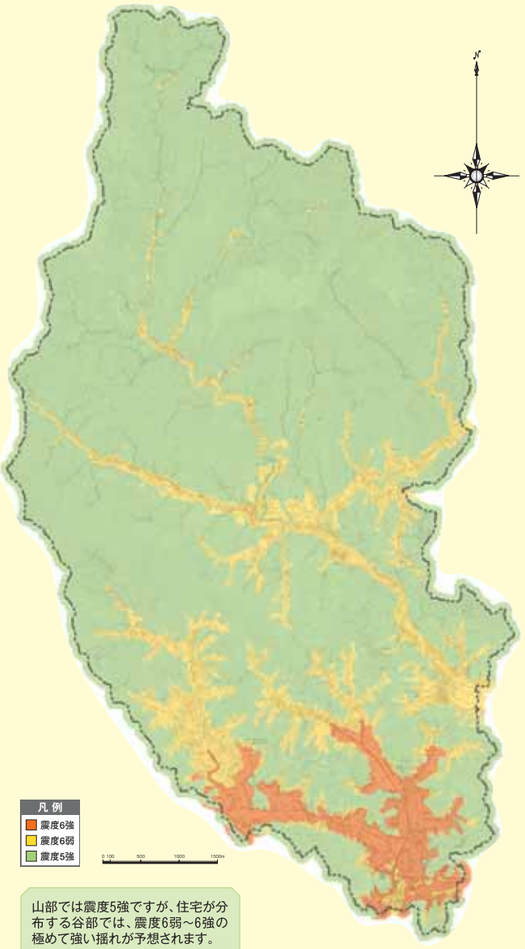
●想定地震3●

山県市直下を震源とする地震

近年、上図に示すように、これまでは大地震発生の可能性が低いと言われていた地域で地震が発生しています。ここでは、どこでも起こりうる直下の地震として、山県市直下でマグニチュード6.9の地震が発生した場合を想定して、震度の予測を行いました。

地震の規模は、阪神･淡路大震災と新潟県中越地震のほぼ中間クラスに相当します。

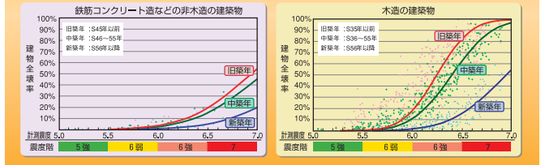
震度予想



山部では震度5強ですが、住宅が分布する谷部では、震度6弱～6強の極めて強い揺れが予想されます。

揺れの大きさと建物の全壊被害の関係

・下図は、阪神・淡路大震災などの最近の地震被害の実態から、震度と全壊被害の関係を示したものです。地震による建物被害は、揺れの大きさだけではなく、建築物の構造や建築年次によって大きく異なります。
・地震による建物の全壊率は、震度が大きいほど高くなりますが、特に昭和55年以前に建築された木造建物は耐震性が低いため、その傾向が顕著です。



「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年 内閣府）を編集・加筆

地震はいつ起きるかわかりません！ あなたのお住まいは安全ですか？

地震時の心得

まずは落ち着いて身の安全を確保しましょう

屋外 乗り物の中では乗務員の指示に従って、落ち着いて行動する

屋内 すばやく火の始末をする

屋内 あわてて外へ飛び出さない

屋内 脱出口を確保する

屋内 落下物に注意する

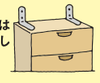
屋外 車はエンジン停止、キーをつけたままでロックはしない

家族の安全を守るために

地震時の揺れで家具が転倒したり、ものが落ちてくる等の危険が考えられます。
あなたやご家族が犠牲にならないよう、家具の固定などの地震対策を行いましょう。

屋内の安全対策

タンス、食器棚、本棚はL字金具やベルトで固定しましょう。



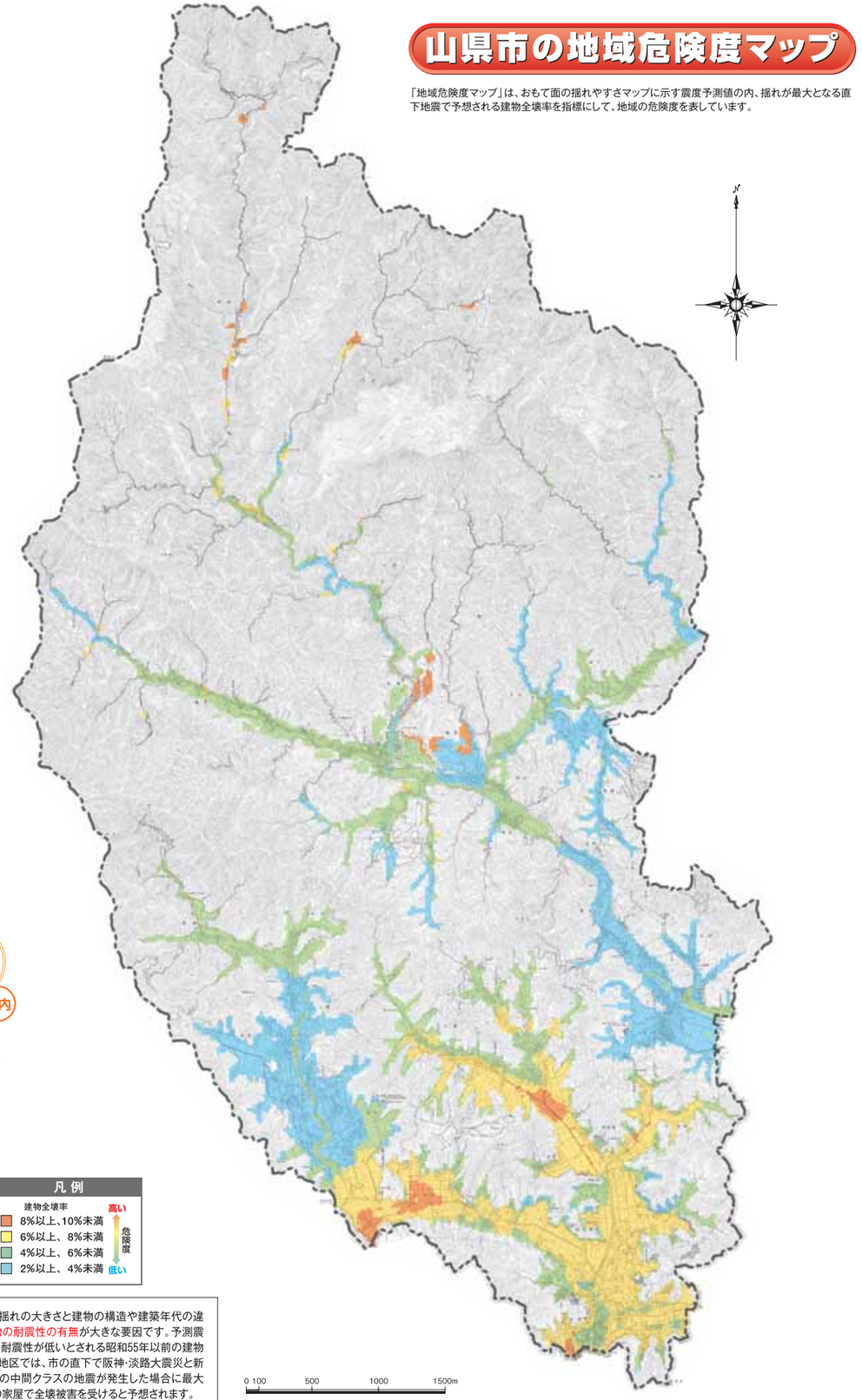
食器棚や本棚については、中身が飛び出さないよう、"さん"を付けましょう。

窓や食器棚などのガラスには、飛散防止フィルムを貼りましょう。

冷蔵庫、テレビ、ピアノなどは壁面に固定して、移動を防止しましょう。

山県市の地域危険度マップ

「地域危険度マップ」は、おもて面の揺れやすさマップに示す震度予測値の内、揺れが最大となる直下地震で予想される建物全壊率を指標にして、地域の危険度を表しています。



建物全壊率は揺れの大きさと建物の構造や建築年代の違いによる、建物の耐震性の有無が大きな要因です。予測震度が同じでも、耐震性が低いとされる昭和55年以前の建物の割合が多い地区では、市の直下で阪神・淡路大震災と新潟県中越地震の中間クラスの地震が発生した場合に最大で約1割程度の家屋で全壊被害を受けると予想されます。

住宅の耐震化が重要です

●住宅の耐震性について

住宅の耐震性は、一般的に古い建物ほど低いといわれていますが、その他にも建物の老朽化や増築あるいは偏って大きな窓があるような配置の不均衡等が倒壊のしやすさの要因であると言われています。

住宅は、建築基準法により建築されますが、その法律も過去の地震被害の経験に基づいて改定されてきており、特に、昭和56年の改正では耐震基準の強化がなされています。この建築基準は、阪神・淡路大震災の被害の検証からもおおむね妥当な耐震基準であると考えられています。

一方、阪神・淡路大震災による死因の8割以上は家屋の倒壊や家具の転倒による圧死であったことが報告されています。ご自身や大切な家族の生命を守るためには、住宅の耐震化が重要です。

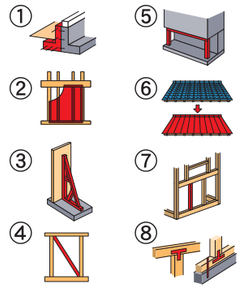
耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状が無くても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ■ドアあるいは窓を閉めたとき、枠と建具との間に著しい縦長の三角形の隙間があいている。
- ■ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形のために思うようにいかない。
- ■窓の敷居が著しく水平を欠いている。
- ■建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- ■床面の傾斜が座っていて感じられる。
- ■シロアリの成虫（4枚羽根のついたシロアリ）が浴室から飛び出す。
- ■屋根の棟あるいは軒先が波打っている。
- ■モルタル塗壁に長い斜めのひび割れが入っている。

など…。

耐震補強方法の例

①打ち増しなど基礎部分の補強
②構造用合板や筋交いなど壁面の補強
③沿柱など建物の外側からの補強
④筋交いなどの補強
⑤ベランダなど「はね出し部」の補強
⑥屋根の軽量化
⑦柱の増設
⑧柱や梁などの交換、金具補強



※消防庁、消防マニュアルより

●耐震診断・耐震補強工事費の補助について

建物の耐震性能の評価方法として、「耐震診断」があります。耐震診断の結果、危険性が指摘された場合には、住宅の耐震補強を行うことが必要です。山県市では、耐震診断や耐震補強工事について、市民のみなさんへの支援を行っています。

※建築物の耐震診断や耐震補強に関しての補助の要件等の詳細については、市役所都市計画課　（☎22－6833）までお問い合わせください。

悪質な住宅リフォームにご注意ください!!

- ●現在、訪問販売によるトラブルが多発しております。特に一人暮らしの高齢者を狙った悪質な住宅リフォームによる消費者被害が社会問題にもなっておりますので十分ご注意ください。
- ●ご家族の安全・安心を守るための住宅リフォームです。失敗やトラブルのないよう、十分ご注意ください。